

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立妻田小 学校

- 厚木市教育委員会の基本目標
- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
 - 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
 - 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 小島 あき子

学校教育目標	学校経営の方針
豊かな心を持ち、たくましく生きる妻田っ子の育成	安心・安全で、笑顔あふれる学校 ・すべての子どもが、楽しく、笑顔で来られる学校づくりに努めます ・自律した学びができる子どもを育てます ・すべての教職員で、すべての子どもを育てる意識をもちながら、チームでの指導・支援に努めます ・学校、家庭、地域の連携のもと、共に育てる教育活動を推進します

今年度の重点目標

いのちがやく教育「げんきな子」強い心と健康な体をもつ子

- ・安全・安心な学校づくりのため、危機管理体制を確立するとともに、安全指導の充実を図り、環境整備に努める。
- ・健康な心と体づくりのために、体力の向上、食育の推進を含む健康教育の充実を図る。

まなびふかまる教育「よく考える子」学び、考え、行動する子

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力、判断力、表現力を育む授業を行い、自主性・主体性を伸ばす教育活動をめざす。
- ・教育活動全体を通して、自己を見つめ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、道徳的实践力を育てる。

ともだちひろがる教育「なかよくする子」だれにでも思いやりのある子

- ・豊かな心を育み、自立した人間として他者と共により良く生きるために、自他を大切にする人権感覚を育てる。
- ・家庭・地域との連携を図り、児童の体験活動を充実するとともに、開かれた学校、信頼される学校づくりをめざす。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
安全指導の充実	1・2	・危害を加える恐れのある不審者の侵入を想定した避難訓練を実施する。 ・避難訓練後の振り返りを充実させ、自分の身を守るための適切な行動について考えられるようにする。	・危害を加える恐れのある不審者の侵入を想定した避難訓練を実施した。職員は隔年でもよいが、児童は毎年実施することが望ましい。 ・避難訓練後の振り返りを充実させ、自分の身を守るための適切な行動について考えられるようにする。	・職員は隔年でもよいが、児童は毎年実施することとする。 ・避難訓練を継続して実施。
交通安全指導の充実	2	・毎月1回のチリリンタイムを継続する。 ・3、5年生では交通安全教室を実施し、他学年ではDVD視聴による交通安全指導を行う。 ・放課後の交通安全について、家庭に協力を仰ぐ。	・毎月1回のチリリンタイムを幅広く「安全指導」として防災に関わる内容を盛り込み実施した。 ・3、5年生では交通安全教室を実施し、他学年ではDVD視聴による交通安全指導を行った。	・チリリンの回数 1学期1回 2学期2回 3学期1回に変更する ・1年生か2年生の時に歩き方や自転車の乗り方の体験的なことができるようにする ＜R7＞1年2年3年:歩き方 4年:DVD 5年:警察講話 6年:DVD ＜R8以降＞1年2年:歩き方 3年:警察講話 4年:DVD 5年:警察講話 6年:DVD
体力づくり	1	・年1回の実施とし、内容は前年度と違ったものにする。 ・持久走については、各学年の体育の授業に組み込む形で実施する。	・年1回の実施とし、短縄を実施。 ・持久走については、各学年の体育の授業に組み込む形で実施した。	・年1回の実施とし、長縄を実施。 ・持久走については、各学年の体育の授業に組み込む形で実施する。

食育の充実	2	・給食時に机を向かい合わせ、対面で会話を楽しみながら食事をする。(食事の場にふさわしい会話について指導する。) ・SDGsの観点から、食べ残しを減らすために、もぐもぐタイムを設定する。 ・給食後に歯みがきをし、むし歯などの予防をさせる。	・給食時に机を向かい合わせ、対面で会話を楽しみながら食事をした。(食事の場にふさわしい会話について指導する。)学年で確認実施をした。 ・SDGsの観点から、食べ残しを減らすために、もぐもぐタイムを設定したが、児童アンケート結果「もぐもぐタイムでおしゃべりをせず、残さずにたべることができましたか」の割合が低かった。 ・給食後に歯みがきをし、むし歯予防等の意識を向上させた。	・次年度も継続して取り組む。「もぐもぐタイム」(最後の5分が課題)習慣化を目指す。
基礎・基本の定着	1	・算数ルームを、2・3・4年生の全児童を対象に実施する。回数は各学年3回ずつ。 ・今後も教材研究の充実を図る。 ・5・6年生で要約の練習をする機会を設ける。 ・朝モジュールの時間を利用して漢字の広場に取り組むことで、前年度学年における漢字の書く力を高める。	・対象学年や時期については良い。もっとやりたいという声もあったが、これ以上はロング昼休みの回数も少なくなってしまうので、回数も今年度程度で良い。 ・学年会の中でも教材研究を充実させることができた。 ・漢字を文章の中で使うことができるよう、朝モジュールで漢字の広場を使って練習したが、定着しきれていない面もあったので、朝モジュールに捉われず、いろいろな場面で漢字を使っていくようにする。	・算数ルーム 来年度も、今年度と同様の学年、回数、時期で実施する。 ・教材研究 引き続き学年でも充実させていく。 ・朝モジュール 漢字の力を育むためにも、引き続き朝モジュールの中で漢字の広場を扱い、文章の中で漢字を書けるようにしていく。
様々な力を育む授業の実施 自主性・主体性を伸ばす教育活動の充実	1	・テーマを決めたり、教科書を利用して書き方を指導したりして、日記の取組を続けていく。 ・良いノートを紹介したり、力が付く家庭学習ノートの取り組み方を指導したりしながら、続けていく。	・日記の宿題では、日記を書く際のチェック項目を決めたことで、書く力が伸びた。 ・各学年学級で良いノートを紹介することで、周りの児童の力も伸びた。ただ、取り組めていなかったクラスもあるので、全体でできるようにしていく。	・日記 自由に書くだけではなく、日記を書く際のポイントを確認して指導を進めていく。 ・ノート指導 ノートの紹介は効果的なので、次年度も続けていく。
道徳的实践力を育む	2	・道徳ノート、またはプリントを使用し、学年での教材研究をさらに充実させていく。	・学年で教材研究をし、様々なテーマについて共有し、授業を進めることができた。	・道徳 学年での教材研究を引き続き行っていき、共有していくことで指導者としての力をつけていく。

自他を大切にする、より良い学級集団作り	2・3	①自己有用感・自己肯定感を高める学級経営の充実 ○児童の実態把握に努める。 ・児童をよく見て、話に耳を傾ける。児童との関わりを大切にする。 ・自ら困り感を出せない児童に着目し、適切な支援を行っていきけるように様々な形式のアンケートを使用していく。 ・児童・保護者との面談を行う。 ○児童の困り感を、機を逃さず、チームで支援する。 ・職員で情報を共有し、必要に応じて、速やかにケース会議を行う。 ・関係機関と連携し、適切な支援ができるようにする。 ・決まりやルールについて学校で指導すると共に、地域との連携や外部講師の講話を取り入れていくなど、積極的に指導していく。 ・「妻田小スクールガイド」を有効に活用していく。 ・困ったときに相談できるように、支援体制を整えていく。 ②お互いの良さを認め合える特別活動の工夫 ○学級活動の充実を図る。 ・児童の実態に合った題材を選び自分事として考えさせる ・授業をきっかけにして、継続的に取り組ませる。 ○委員会活動、クラブ活動の充実を図る ・異年齢集団でのかかわりを通して、上級生へのあこがれをもたせる。	①自己有用感・自己肯定感を高める学級経営の充実 ・YP・いじめアンケート、自分のことを知ろう・知らせようアンケートを行い、児童の実態を捉えて支援・指導に生かすことができた。 ・児童アンケート6「学校の決まりやルールを守っていますか。」の項目では、多くの学年でアンケート結果の数値が上がった。学校生活での決まりやルールは勿論のこと、放課後に地域で過ごすときのルールを守れるように、引き続き指導を強めていく。 ②お互いの良さを認め合える特別活動の工夫 ・児童アンケート9「友達と仲良くすることができていますか。」で、昨年度と同様高い数値となっている。昨年度まで校内研究で研究してきた特別活動の成果や、今年度の校内研究で力を入れている学び、コロナの感染症が5類に移行してから、子ども同士の関わり合いが増え、より良い関わり方を学べる機会を積極的に作れたこと等が良かったのではないかと考える。児童が思いやりをもって生活していけるように、今後も日々の指導を強めていきたい。	・児童の実態把握に努めるために、児童との関わりを大切にしたり、定期的にアンケートを実施したりしていきたい。その際、自ら困り感を出せない児童に着目し、適切な支援を行っていきけるように様々な形式のアンケートを使用していく。 ・決まりやルールについて学校で指導すると共に、地域との連携や外部講師の講話を取り入れていくなど、積極的に指導していく。「妻田小スクールガイド」を有効に活用していく。 ・コロナ時期よりも関わりが増えてきた分、楽しいことや嫌なことを経験していく回数も増えてきたかと思う。トラブルも目につくが、徐々に、より良い関わりの方方を経験し学んできている様子も見られる。来年度から取り組む予定の「縦割り活動」等を通し、より良い関わりができるような場の設定を積極的に行っていく。また、困ったときに安心して相談できるように、支援体制を整えていく。
地域教材の活用と、地域の方との連携	3	①地域や保護者との連携の推進 ・地域行事については、今後も各教室で声掛けをしていく。特に道徳での授業の中で、丁寧な指導をしていく。 ②体験活動の充実 ・ボランティア計画表の活用を充実させていく。 ・学校運営協議会等で、情報共有していく。	①地域や保護者との連携の推進 ・職員アンケート10の数値が、一昨年度、昨年度よりも上がっている。ボランティアや外部講師の計画が立てられてきた。次年度以降も積極的に計画し、連携していきたい。一方、保護者アンケート7は少し上がっているものの、約36%が「あまり思わない」「思わない」と回答している。妻田フェスティバルを始め、算数ルームやボランティア、外部講師との学習等を通して、地域の方との関わりを積極的に増やし、地域行事への関心を高めていきたい。また、引き続き教育活動全般を通して、地域行事についての話をしていきたい。 ②体験活動の充実 ・体験活動への取組は増えてきている。引き続きボランティア計画表を活用していく。今後も学校運営協議会でも話題にしていきたい。	・地域行事については、今後も各教室で声掛けをしていく。特に道徳での授業の中で、丁寧な指導をしていく。 ・ボランティア計画表を見える化し、活用を充実させていく。 ・学校運営協議会等で、積極的に情報共有していく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見 「中規模の学校であることから、児童一人一人と丁寧に向き合っていて安心できる。」「ISSの活動を行っていて睦合南地区全体の安心・安全の意識が高く、学校・保護者・地域が一体となって児童を見守る体制が整っている。」「地域学校協働活動が軌道に乗ってきている。」等のご意見をいただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針 学校教育目標具現化に向けて職員全体で取り組むことができ、目標達成と判断されているものも多く見られた。目標達成と判断されたものについては引き続き取組を継続していくとともに、取組が十分ではなく改善が必要とされるものについては、次年度の取組をさらに工夫し、来年度の成果につなげたい。				